

第606回番組審議会報告

2016年3月1日開催

■出席委員

櫻井美幸委員長 佐藤友美子副委員長 上田理恵子委員 神谷徹委員 小菅洋人委員 佐藤卓己委員 津村記久子委員 中野健二郎委員（書面参加） 東野博昭委員 細見良行委員（書面参加）

■毎日放送出席者

三村社長 梅本専務 木田取締役 西田取締役 西村取締役
大牟田コンプライアンス室長兼番組審議会事務局長
虫明ラジオ局長 竹田編成局長

◆審議事項

「MBSの番組・放送全般」 について 意見交換した。

【各委員の主な意見は次の通り】

- *この1年間で印象深い番組は「プレバト！」と「林先生の初耳学！」。ともに今までにないスタイルとか斬り口が新鮮、しかも質が落ちずに、むしろ元気になり続けている。
- *「とびだせ！えほん」や「昨夜のシンデレラ」などのコーナーは「ちちんぷいぷい」ならではのもの。普通の人を普通に映すということを自然にさらっとやっている。
- *「ちちんぷいぷい」で事件を取り上げるとき、スタジオ出演者の問題意識がずれていたり、説明がこなれていなかったりすることがある。報道と制作の連携をもっと生かせたらと思う。
- *深夜にも非常にいいアニメ番組があるのに番宣が少ない。録画視聴が前提だとしても、どんなアニメが放送されているかをもっと知らせる工夫があってよい。

- * 「VOICE」は問題指摘型の硬派のニュース番組だが、まれに優等生的な主張だけで説得力が十分でないことがある。庶民感覚を忘れず、問題の核心を伝えてもらいたい。

- * ラジオで昼前の時間帯に松井愛アナウンサーを起用したのは成功だ。あの時間に女性パーソナリティーを持って来たのは画期的だと思う。

- * ラジオで気になるのはわりと長い生CMが多いこと。何度も同じような商品説明を聞かされると、しまいにはリスナーにそっぽを向かれることになりはしないか。

- * 「美の京都遺産」は15分の番組にコンパクトにまとめられているが、放送時間が日曜の早朝、せっかく良い番組なのに惜しい。

- * テレビは家族団らんの中心であってほしいという強い思いがある。見たあと家族で話し合えるような、人々の問題意識を喚起する番組を作ってほしい。

- * 視聴者とテレビの関係は、消費者が勝手に商品を選ぶことが出来る B to C の業界と似ていて、究極的には“質の良い”番組、時流を感じながらも確固とした“基軸”を持った番組こそが求められる。

- * 放送局のホームページは、誰をターゲットにして、どういうアクセスをメインに考えているのか。ウェブ時代の放送局におけるホームページのあり方には一考の余地があると思う。

- * 放送した番組の情報価値をどう考えるか。放送が終わればつい次の番組のことを考えがちだが、過去に放送したものに対して大切なアーカイブだという感覚、発想が必要なのではないか。